

公表

事業所における自己評価総括表 あんず

○事業所名	障害児・者総合サポートセンターみつばち		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 10日		～ 2026年 3月 10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	7 (回答者数)	5
○従業者評価実施期間	2026年 2月 10日		～ 2026年 3月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6 (回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 23日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	安心して子供を通わせられるよう、保護者・職員と情報共有を行い、支援に生かすよう努めている。	連絡帳への記載や送迎時に口頭にて、お子さんの様子を伝え、情報共有している。日頃の様子を共有することで、課題なども共有し支援に生かしている。	今後も、情報共有は丁寧に行っていききたい。
2	プログラムを工夫し、生活経験が増えるよう努めている。	設定保育は、季節感も取り入れながら、子どもたちが興味を持って取り組めるよう工夫している。	日々の習慣を身につけることも大切にしつつ、いつもと違う活動も取り入れながら、生活技術や社会性が身につくよう支援を行っていききたい。
3	定期的に法人の会報誌や事業所のホームページで活動を発信している。	法人の会報誌には、行事などの様子を写真付きで掲載している。ホームページには、行事の様子など掲載している。	小まめに発信することはまだ出来ていないが、可能な範囲で今後も発信していききたい。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	活動スペースの不足やバリアフリー対応が困難。	利用時に高学年が多い日は、十分な活動スペースの確保がしにくい。また、雨天時は外遊びもできないため、活動スペースに余裕がない。	机を適宜移動し空間を確保したり、部屋を分散するなどの工夫を継続していく。安全面については、利用時に注意を促しつつ、事故防止に努めていく。
2	地域の他の児童との交流の機会がない。	事業所内での活動が中心。利用時間も放課後のため、そのような場に出向く機会がない。	保護者から、そういった機会を望む声は上がっていないが、地域の情報を収集し、参加できる機会がないか、また保護者の意向も含め検討していく。
3	保護者会の開催がない。	日程の調整などの困難さから、実施できていない。	保護者の意向も確認しながら、行事などを通じて保護者同士が話せる機会を提供できるか検討していく。